

Contents

● **どんな環境でも**
必要とされる仕事がある 4

Works 1 **特殊高所技術者** 6

Works 2 **南極地域観測隊員** 10



コラム 1 **特別な環境で**
仕事をする人の命を守る 14

Works 3 **有人潜水調査船**
パイロット 16

Works 4 **山岳ガイド** 20

みんなのギモン

コラム 2 「お金」と「やりがい」
どちらが大事ですか? 24

Works 5 **医療・人道援助スタッフ** 26

Works 6 **海上保安官** 30



ほかにもあるよこんな仕事 35

Works 7 **格闘家** **Works 8** **交通管理隊**

Works 9 **スタントマン**

Works 10 **下水道で働く人たち**



はじめに

みなさんは「めったに行けない場所」と聞いて、ど
なところを思いうかべますか? めったに行けない場所は
めずらしい場所でもあり、人があまり入れない場所でも
あります。

例えば、数十メートルもある鉄塔にのぼったことがある
人や、マイナス70℃にもなる南極に行ったことがある人
は、ほとんどいないでしょう。また、日本のように病院な
どの設備がととのっていない国で生活をしたことがある
人も少ないと思います。世の中には、そういう場所で働
きながら、みなさんの生活を支えたり、未来のために研
究したり、世界の問題を解決しようとしている人たちが
います。

「こわくないのかな?」や「大変じゃないのかな?」と
思うかもしれません。

本書では、そんな場所でどんな仕事をしているのか、
また、なぜその仕事を選んだのかをしょうかいしています
ので、ぜひ、読んでみてください。

パーソルキャリア株式会社
“はたらく”を考えるワークショップ推進チーム

どんな環境でも

必要とされる仕事がある

めったに行けない場所・環境とは？

わたしたちがふだん行く場所は、家や学校、スーパー、公園など、安全で行きやすい場所ばかりです。でも、世界には、わたしたちが気軽に行けない特別な場所やきびしい環境があります。

特別な場所・環境で働く人は
必要な技術を
身につける

高いビルや南極、深海、海上、災害や戦争が起きている場所などで、特別な仕事をする人たちがいます。彼らは、訓練を受けたり、勉強をしたりして、そこで働くために必要な技術を身につけます。



その仕事をするのは

どうして？



「めったに行けない場所や環境」の仕事は、わたしたちの生活や未来と深くかかわっているものが多くあります。



ダムや風力発電の風車など、足場をつかわずロープだけで体を支えながら点検を行う人たちは、わたしたちたちの生活に欠かせない水やエネルギーの施設を守っています。南極や深海では、地球の気候変動や生き物などに関する調査・研究を行う人たちもいます。彼らの調査・研究によって将来、新しい技術・発見が生まれるかもしれません。

また、災害や戦争が起きている場所で助けを求める人々を支援する仕事、俳優さんに代わってむずかしいアクションをする仕事、海の安全を守るための仕事など…どんな場所・環境にも仕事があり、それらによってわたしたちの生活は支えられています。



めったに行けない

場所・環境の仕事

宇宙飛行士

南極地域観測隊員

特殊高所作業員

潜水士

火山学者

災害救助隊員

下水道管技術者

警察官・消防士

などがふくまれます。

特殊高所技術者

株式会社 特殊高所技術

橋やダムなど、高所にある

インフラ施設を身ひとつで点検する



どれくらい高いところで作業するの？

特殊高所技術者の仕事ができる前は、遠くから双眼鏡で見てたしかめるだけでしたが、橋やトンネルの落下事故が増えたのをきっかけに、近づいて点検する必要が出てきました。

特殊高所技術者は、「地面から高さ2メートル以上の床をつくれぬ場所」で、足場や重機などをつかわずに作業をします。50メートル、100メートルの高さで点検・補修をすることもあります。

機械がつかえない場所を点検・補修する仕事

電気やガス、水道、道路、鉄道など、生活にかかせないものをインフラ（生活を支える基盤）といえます。

とくに電気やガスは、橋、風車（風力発電用）、ダムなどの施設を通して、学校や病院、会社やわたしたちの家に届きます。施設は屋外にあるので点検や補修が必要ですが、ほとんどが高所にあるので、足で立てるくらいの場所もないので、機械をつかって楽に作業をすることができません。

そこで、人がロープなどで落下防止をしながらぶら下がり点検・補修をする技術（特殊高所技術）を持つのが、特殊高所技術者です。

おしごとデータ

年収 約375万円～

仕事時間 1日6時間

必要な資格 特殊高所技術の資格1級・2級・3級のいずれかが必要です。

大きな事故を防止するための点検と補修の仕事

「点検」「調査」「簡易補修」の3つの仕事を中心に、悪いところがないかを調べ、必要であれば直す仕事です。

●橋や風車などの定期点検

仕事は、国土交通省や地方自治体などから依頼されます。国が決めた点検のルールをもとに、橋、風車、ダム、岩かべ、法面（山や丘を切り開いたり、土を盛り上げたりするときに行われる人工の斜面）などに登り、近づいて目で見て、傷や状態の変化を確認します。



仕事場は地上70～80メートルの高さ！



1日5時間は高所作業をしているよ

●橋・道路の調査や

コンクリートのひび割れ調査

橋や道路に異常がないか、コンクリートにひび割れなどがなく、近くで見てもわからない変化は機械をつかって調査します。また、ハンマーでコンクリートをたたいて強度を調べ、超音波や電磁波をつかってコンクリート内の傷を調べる「非破壊検査」も行います。



塗装面などをみがく電気工具

●ひび割れなどの補修工事

特殊高所技術の仕事は、主に「点検」ですが、簡単な補修（ひび割れなどの部分を直すこと）も行います。

コンクリートのひび割れをうめたり、塗装面などをみがいたり、もろくなったコンクリートをけずったり、補修材をつめたりして補修します。大きな工事の場合は、ほかの会社の人が行います。



道具を落とさない工夫は必須

作業でつかう特殊な服装・道具



- 筆記具
- 無線機
- フルボディハーネス
- カラビナ (金属の輪)
- スリング (輪になったロープ)
- ランヤード
- 登高器 (ハンドアッセンダー)
- アブミ
- アブミ
- ひざあて
- ヘルメット
- 登高器 (チェストアッセンダー)
- 下降器 (ディッセンダー)

特殊高所技術者は、けがを防ぐため装備をととのえます。

まず、上下がつながった「つなぎ」を着てはだを保護します。つなぎは夏でも長袖長ズボンで、長袖をまくことは禁止されています。

また、落下物から頭を守る「ヘルメット」をかぶり、コンクリートなどのかたい場所でひざをけ

がしないように「ひざあて」を装着します。

さらに、つなぎの上から、墜落制止用器具「フルボディハーネス (安全帯)」を着用し、「カラビナ」という金具とロープをつかって体をしっかりと固定します。これらを装備することで、特殊高所技術者は高い場所でも安全に作業を行うことができます。

特殊高所技術者になるには？

一般社団法人特殊高所技術協会が主催する講習を受けると、資格がもらえます。

高所作業の知識を学ぶ

高い場所で作業するときの危険なポイントや、特殊高所技術のスキルを実際に高所で学びます。また、ロープのむすび方や機材のつかい方、どんなときにけがをするのかも勉強します。

高所作業の技術を学ぶ

一番高いところで15メートルになる練習用の高い建物 (とう) をつかい、登り方や降り方を練習します。また、とうを横に移動する方法なども学びます。

教えて！

特殊高所技術者さん

この仕事
13年目

株式会社 特殊高所技術
坂井翼さん (42歳)

インフラを守る
ヒーローのような
お仕事です



Q どうして特殊高所技術の仕事を選んだの？

橋やダムの仕事をした技術者にさそわれて、一緒に仕事ができたら面白そうだったのがきっかけです。わたしの周りだと「かっこいい」「人とちがう仕事がしたい」という理由で、この仕事を選んだ人もいますよ。



Q 食事やトイレはどうするの？

おにぎりやサンドイッチ、ゼリー飲料などを作業する場所に持って行き、ぶら下がりながら食べます。緊張しているのでトイレに行きたくないことはあまりないですが、どうしても行きたい場合は、一度降ります。

Q 働いている人は男性が多い？

男性が多い仕事ですが、女性もいます。ひと昔前は、土木の仕事といえば男性中心でしたが、最近は現場で活躍している女性も増えてきています。

Q どんな人に向いている？

まじめで、細かいところに気がつける人です。本当に大丈夫かどうか、安全を確認しながら作業することが大切なので、高い場所が平気な人よりも、苦手な人のほうが向いていると思います。

Q 仕事で大変なのはどんなこと？

夏の暑い中で作業をするのがとても大変です。高い場所なので太陽に近いですし、日かげがない現場もあります。熱中症にならないように、飲み物をたくさん飲むようにしています。

Q どういうところがやりがい？

点検で大きな傷を見つけたときです。自分が行けなかったらわからなかったことなので、やりがいを感じます。大きな傷がなかったときも、安全が確認できたということなので安心します。